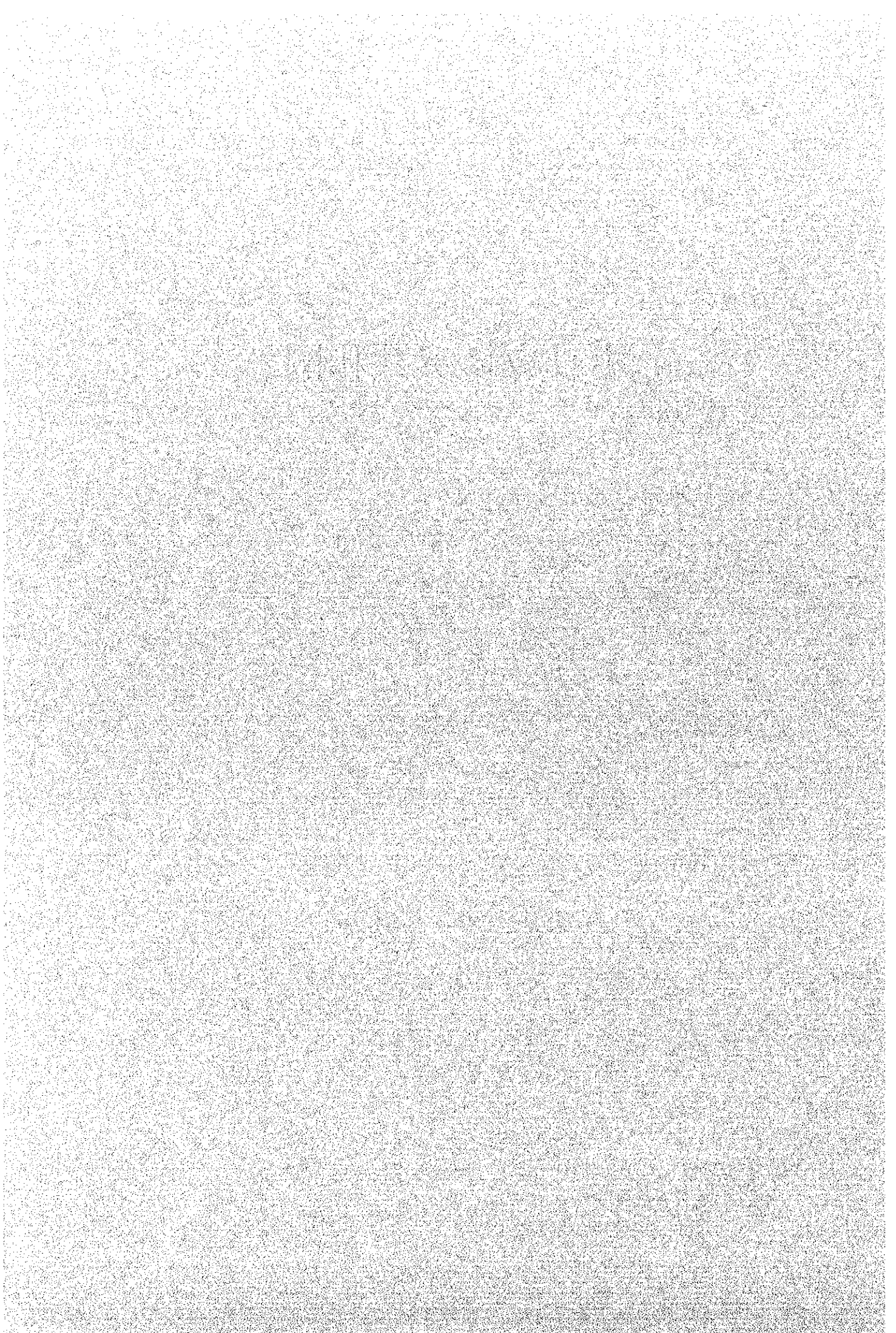


ボリヴィア共和国



海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	オキナワ日ボ協会					
	(欧文) Asociacion Boliviano-Japonesa de Okinawa					
設立目的	オキナワ移住地の行政組織として移住者の生活全般（自治活動に関わる事務一般、道路維持・管理、学校運営、診療所運営、治安維持他）の便宜供与を成すことを目的とする					
設立年月日	1978年 11月 30日		法人格取得年月日	1981年 2月 5日		
代表者	職名	会長		任期	98年3月～00年2月	
	氏名（和文）	具志堅 興貞				
	//（欧文）	Kotei Gushiken				
役員構成	会長 1名、副会長 1名、評議員 7名、監事 3名					
本部所在地	Okinawa No.1, Canton Okinawa, Provincia Warnes, Departamento Santa Cruz, Bolivia					
連絡先	郵便物宛先	Casilla de Correo 582, Okinawa No1, Santa Cruz, Bolivia				
	電話番号	0923-7020	(団体・個人宅[])			
	FAX番号	0923-7029	(団体・個人宅[])			
	E-mailアドレス	abjok@mail.zuper.net		(団体・個人宅[])		
会員数	個人会員	217世帯 816名		地域内日系家庭全体に対する加入率：約 100%		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		325人(40%)	314人(38%)	171人(21.3%)	0人(0%)	6人(0.7%)
法人、団体会員	_____法人（団体） 主な法人（団体）名：					
会員資格等	会員資格	・オキナワ移住地に居住する家族の戸主でオキナワ日ボ協会評議員会の承認を得た者。				
	会費	年間 580米ドル相当額（換算レート：US\$1＝現地通貨 5.64 Bs）				
	会員の特典	本協会設備の利用、行事への参加。会長以下役員の選挙、被選挙権。				
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語（日本語のみ、現地語のみ、両方等） 通常は日本語。部分的にスペイン語での説明を加えることもある。					
	・団体が発行している各種資料（パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等） 通常は日本語。部分的にスペイン語での説明を加える。					
定期出版物	タイトル					
	発行部数					
	言語					
	価格（有料の場合）					

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		オキナワ日ボ協会 管理部(事務局)	6
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	オキナワ診療所	18	4
	オキナワ第一日ボ学校	20	
	ヌエバ・エスペランサ小中学校	22	
	機材部(道路工事部)	10	
	第2移住地事務所	1	
	サンタ・クルス事務所	1	

(2) 団体組織機構(部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
青年部	各種行事への参加。スポーツ大会等の実施。	70
婦人部	各種行事への参加。スポーツ大会、視察旅行、講習会等の実施。	250
敬老会	ゲート・ボールに関わる活動。	

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
日本語学校	2校。各校とも日系生徒約65名で日系子弟はほぼ100%就学している。
文化会館	1棟。日ボ協会通常業務をおこなうと共に各種行事、会合で使用している。
重機修理工場	1棟。機材部通常業務で常時使用。
診療所	1棟。他に分院1棟あり。通常業務で使用。年間患者数約8,500人。
公民館	2棟。行事、会合の祭に使用。
体育館	2棟。スポーツ行事、会合等で使用。

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～ 97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
前年度繰越金	65,146.46	役職員給与、手当	53,077.08
賦課金	107,639.29	事務局、役員業務費	16,525.44
事務局収入	31,370.59	道路、機材維持管理	449,129.30
機材収入	373,394.21	機材残工事費	51,570.86
雑収入	29,998.58	団体会費、助成費	17,700.00
未収金回収益	19,010.24	租税	1,700.00
預金引出	150,000.00	行事費	10,068.86
JICA助成金	233,927.37	施設維持費	133,513.74
その他(車両売却他)	13,527.03	治安対策費	6,347.87
		雑費	8,091.96
		積立金	0.00
		JICA助成金事業費	233,927.37
		その他(水害対策他)	36,586.00
		次年度繰越金	5,775.29
合計	1,024,013.77	合計	1,024,013.77

換算レート：US\$1=現地通貨5.64Bs (98年12月30日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1992	1993	1994	1995	1996
予算額	991,999.00	757,590.00	984,345.00	1,198,148.00	1,214,348.00
支出額(実績)	955,238.00	1,085,538.00	1,054,061.00	1,578,049.00	1,330,199.00

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・自治活動（一般事務、戸籍管理、郵便代行、各種行事他） ・移住地内の道路維持管理 ・学校運営 ・診療所運営 ・治安維持

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：生活基盤整備

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・移住地内道路の維持管理 ・水害対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路は経済的事情により砂利敷設等の維持、整備が十分に出来ない。将来的にはアスファルト等の舗装を要する。 ・例年、水害が起こるため、周辺河川の治水事業を要する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・当協会機材部により道路維持、整備を行なっている。 ・当協会機材部および会員個人による築堤や排水路整備をおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・道路については各種舗装（アスファルト、コンクリート等）をおこなない、全天候道路とする。 ・水害対策は当国政府との連携を取り、治水事業の実施を図る。

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
特になし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

パラグアイ国イグアス日本人会とは農業視察等の交流あり。

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・道路公団より砂利敷設（移住地内の道路の一部に）工事の援助事業が過去数度行なわれている。
地方自治体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・移住地名がオキナワ村として正式な行政区として許可されている。 ・村役場に対する道路整備等の援助を年数回行なっている。
地域住民・民間団体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・当協会運営の診療所は来院患者の75%が地域の非日系人である。

(3) JICAへの要望・期待

・地域インフラ整備が当地の課題であるが、移住地の整備により当地の主産業である農業と共に商業の発展も期待でき、ひいては周辺の非日系人社会の生活全般を潤すことにつながるため、技術、経済協力となり得る。については移住地インフラ整備の援助につき、更なる充実を要望する。

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	サン・ファン日ボ協会				
	(欧文) Asociacion Boliviano-Japonesa San Juan de Yapacani				
設立目的	・サン・ファン地域内における日・ボ両国人の相互の親睦と互恵のため協力し、日ボ両国文化の同和同化を図る。 ・全ての会員の精神の修養と教育の向上を図り、社会的地位の高揚に努める。				
設立年月日	1965年 1月 1日		法人格取得年月日	1977年 8月 1日	
代表者	職名	会長		任期	99年1月～00年12月
	氏名(和文)	池田 篤雄			
	// (欧文)	Tokuo Ikeda			
役員構成	会長(理事長) 1名、副会長(副理事長) 1名、理事 6名、監事長 1名、副監事長 1名、 監事 1名、区長 7名、診療所運営委員(理事兼務) 8名、教育運委員 5名、交流会館運営 委員(区長兼務) 9名、道路委員(区長兼務) 7名、選挙管理委員(区長兼務) 7名、事務局 長 1名、経理主任 1名、庶務主任 1名				
本部所在地	Colonia Japonesa San Juan de Yapacani, Canton San Carlos, Provincia Ichilo, Departamento Santa Cruz, Bolivia				
連絡先	郵便物宛先	Cailla de Correo No. 464, Santa Cruz, Bolivia			
	電話番号	0934-7024/0934-7055/0934-7281		(団体) 個人宅[])	
	FAX番号	0934-7290		(団体) 個人宅[])	
	E-mailアドレス	sanjuan@abjsan.scz.com		(団体) 個人宅[])	
会員数	個人会員	222世帯 721名 地域内日系家庭全体に対する加入率：約100%			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降
		182人(82%)	40人(18%)	0	0
法人、団体会員	_____ 法人(団体) 主な法人(団体)名：				
会員資格等	会員資格	・サンファン移住地に居住する日系人			
	会費	年間(平均)約840米ドル相当額(換算レート：US\$1=現地通貨5.64Bs) 98年12月16日現在			
	会員の特典	・協会所有の公共物件を共用し、その利益を享受することが出来る。 ・各種届け、各種手続きを協会を通じて行う事が出来る。			
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等) 日本語のみ(但し教育運営委員会は現地語教師が参加するため日・西語併用)				
	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等) 日本語(但し必要に応じ西語併用)				
定期出版物	タイトル	A・B・J通信			
	発行部数	300			
	言語	日本語(但し必要に応じ西語併用)			
	価格(有料の場合)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および付属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	事務局	6	
	サンタクルス事務所	2	1
	道路・土木・車両班	10	
	文化交流会館	欠員	
付属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	診療所	23	3 (雇員)
	ガソリンスタンド	4	
	学園	22	1 (雇員)
	幼稚園	4	

(2) 団体組織機構 (部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
教育運営委員会	移住地内の教育機関 (幼稚園、学園) の運営管理	9
診療所運営委員会	診療所の運営、施設の管理 (理事会兼務)	8
交流会館運営委員会	交流会館の運営管理 (区長会兼務)	9
道路委員会	移住地内の道路整備、管理計画の立案 (区長会兼務)	8
選挙管理委員会	監事選挙の管理 (区長会兼務)	7
自警団	事件発生後警察出動までの警備、及び捜査活動協力 (7分団)	約180
連合婦人会	移住地7地区の連合体。移住地行事への協力、他地区婦人会との交流親善	145
連合青年会	移住地7地区の連合体。移住地行事への協力、他地区青年会との交流親善	25
寿会 (老人会)	70才以上を会員とし、年1回の親睦会開催	約140

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
事務所	常時協会業務遂行のため利用
交流会館	各種行事 (講演会、講習会等) に利用
移民歴史料館	移民史料の展示。外部より来訪者への説明
公民館	各種行事 (学校行事、結婚披露宴等) に利用
運動場	学園生徒常時利用
バスケットコート	学園生徒常時利用
テニスコート	一般、青年常時利用 (夜間も利用可)
学校施設	サン・ファン学園常時利用
診療所	移住地日系人及び周辺住民利用 月～金8:00～18:00 (国・祝祭日休業、但し急患受付)
ガソリンスタンド	各種燃料、油脂販売 毎日7:00～18:00 (国・祝祭日休業)

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 1月 1日～97年 12月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
部門名	金額	部門名	金額
一般会計(協会費)		一般会計(協会費)	327,088.64
JICA助成金	14,275.32		
その他	313,303.95		
サン・ファン学園		サン・ファン学園	159,311.68
JICA助成金	44,880.22		
その他	114,934.96		
サン・ファン幼稚園	32,383.71	サン・ファン幼稚園	31,947.57
通学バス	44,772.27	通学バス	44,066.88
道路・車両関係		道路・車両関係	569,868.92
JICA助成金	287,165.69		
その他	284,530.22		
交流会館	22,061.37	交流会館	21,880.85
サン・ファン診療所		サン・ファン診療所	578,546.72
JICA助成金	208,279.34		
その他	374,456.79		
ガソリンスタンド	138,306.36	ガソリンスタンド	104,264.37
合計	1,879,350.20	合計	1,836,975.63

換算レート：US\$1＝現地通貨 5.36 Bs (97年12月末日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	1,086,695.21	1,155,000.70	1,111,429.09	1,344,549.54	1,246,069.05
支出額(実績)	1,173,433.81	1,419,371.99	1,220,055.88	1,457,668.64	1,836,975.63

4. 事業概要

(1) 事業内容 (自治活動)

<ul style="list-style-type: none"> ・ 賦課金、年間行事、渉外、JICA助成金関連業務と労務契約等、全業務の統括 ・ 名簿戸籍、領事事務所との連携業務、郵便物の取扱、文書の配布等 ・ 幼稚園、学校 (1~8年私立) 日・西両語教育とスクールバスの運営 ・ 診療所の運営と施設の管理、機材の更新、老人対策 ・ 地区内道路の維持管理と機械車両の保全、土木事業等の計画及び施工 ・ 治安事務所、車両検問所、燃料スタンド運営 ・ 交流会館の運営、青少年・婦人対策、対ポリヴィア人との文化交流 ・ 日系団体への参加協力

(2) 重点分野への取組 (重要度が高い順に記載)

1) 分野名: 道路維持管理

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・ 年間を通じ全体の道路約200kmと水路35kmの維持管理。 ・ 機械車両の維持管理と砂利運搬、暗渠等構造物の補強・掛け換え作業。 ・ 98年度全体予算の約20%を道路・機械関係に投下して管理している。その内砂利購入費が約5万\$。 ・ 会員は道路普請で道路両側の障害物除去や清掃を実施。 ・ 市街地等は地元自治体と連携してボ国政府の地域開発の予算を申込み、ポリヴィア人組織との連携事業を本年より実績を揚げている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 移住地内道路を通過して農産物を搬出する域外の受益面積は約15万町歩あり、ポリヴィアの米作地帯である当イチロ郡は主作米の搬出時期が雨季 (年間降水量の半分) の2月で道路の損傷が甚だしい。 ・ 農繁期の2月の交通量は市街地地区で24時間平均1,500台、重量推定で約9,100トンを予測している。砂利道では県内で一番の通行量で県道クラスでは最多の交通重量である。 ・ 現在までJICAの援助と会員の自助努力で造成、改修、補修し、JICA助成の機械車両で管理してきた。ポリヴィア政府が近年ようやく僅かながら管理費を地元ポリヴィア人自治体を通じて助成するようになってきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ JICAへ災害復旧工事費 (側溝整備) 計画で無償援助を申請。 ・ 大使館、JICAの日本政府関係官庁とポリヴィア・サンタクルス県庁へのアスファルト舗装計画の申請。 ・ サンカルロス村や道路利用者の一部に道路補修砂利購入費の負担を要請し道路補修、暗渠等の改修を実施 ・ 道路公団への地区内幹線道路と北方道路や巡回ルートの実業道路整備計画の実施継続を申請。 ・ 当該道路を含む維持管理の為の機械車両等の交付を申請。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ アスファルト舗装化の推進で実現されると道路の維持管理は道路公団になると思慮されるが、でなければ現交通量により日ボ協会は道路公団 (県庁) とタイアップして通行料金の徴収で維持管理しなければならない。 ・ 地方分権制度でサンファンが現在イチロ郡の第4管区を申請しているが、独立した場合道路管理用に必要機械車両の助成を受け、地域内で徴収可能な通行料や車両税、農地税、土地税等で管理できる。 ・ 日本政府、JICA等に申請しているアスファルト舗装工事や道路機械車両の助成があると日ボ協会を中心とした組織で機械償却費を積立、将来に備えて管理する。

2) 分野名：診療所運営（医療衛生関係）

<p>・JICA助成と一部受益者にて造成した診療所で日ボ地域住民の健康管理を行っている。</p> <p>・1997年は年間9,000件で日系人は約17%弱、ポリヴィア人約83%強の割合の診療実績で、内科小児科が約54%を占め、次に外科整形外科が10%を占めている。</p> <p>・JICAより医師3名と看護婦の給与約14万5千ドルの助成（1997年）と医療機器を年次別に助成を受けておりポリヴィア地方部の診療所の施設・設備としては良い方である。</p> <p>・医師3名、看護婦9名、歯科医（特約医）1名、検査技士、X線技士等27名のスタッフで当地方でも施設・設備と技術で名を博している。</p>	<p>・移住地に西語を理解出来ない一世が約320名いるがこれらを助ける日本語と西語を理解できる看護婦がいない（育たない）。</p> <p>・地方部の診療所で当地域は約1万人程度の人口に他に公立の診療所が1つあるが、現在JICAの援助で医療機器と施設が整い、医師の採用等に有利で何とか採算性を保っているが、助成がなくなると経営は極端に厳しくなる。</p> <p>・公立診療所は医師給与、薬剤、保険制度、無料診察、集団衛生、予防対策、管理等の全ての面で劣り、私立でなければまともな受診も出来ない。</p> <p>・一世が年老いて保護者のいない老人家庭等援護の必要な高齢者は、近い将来当協会（診療関係施設）が介護しなければならない時期に到達しており、老人ホーム的な施設が必要になってきた。</p>	<p>・JICAのシニアや青年ボランティアに日系人への医療サービスの応援指導を願っている。</p> <p>・医療機器も計画的にJICAの援助を受けており、地方での貧困度も高く支払い能力も低く日系人以外は医療費のアップは困難である。更新積立金を実施しているが医療機械は高額で長期計画でも容易ではなく、それらの更新援助の継続を希望している。</p> <p>・老人ホーム建設用地は診療所内に確保して、施設の建設費用を物色している。</p> <p>・極貧困な支払い能力のないポリヴィア人は公立の診療所で受診している。</p> <p>・日系人の70才以上の老人診察料は無料であり、年2回の定期検診も人件費は無料である。</p>	<p>・医師や看護婦による医療アテンドも可能なよう、診療所内に老人ホームを建設するため、土地を整備しているが、建設費と設備の調達にJICA等の助成を申請したい。</p> <p>・ホーム入寮費は、土地の売却等で能力のある人は一部にあるが、保護者のいない、財産の無い老人は日ボ協会が診療所の利益や保険制度より支出する計画である。</p> <p>・医療保険制度を導入して今後の会員、日系人の健康を確保する。</p> <p>・医師や看護婦や医療機器の技術者に日系人の派遣を要請する。奨学金や奨励金等の制度でこれらの人材を育成する。</p>
---	---	--	---

3) 分野名：現地公教育（学校運営）

<p>・正式の許可を得た半公立校（西語）に午後日本語を指導するバイリンガル教育である。但し、西語教師は教育庁より派遣（有資格）教諭で給与の一部を支給している。</p> <p>・幼稚園＝3～5才児の3区分である。小学校＝5年制、中学校＝3年制の計8年（義務教育）で高校入学資格を持つ制度</p> <p>・指導教師スタッフ 西語教師18名 日語教師 9名 （内西語兼務3名） シニア 1名 青年ボランティア1名 幼稚園 4名 （内日系3名、内青年ボランティア1名） 合計27名の指導教師である。</p> <p>・日ボ協会は教育委員会を傘下において、日・西両語関係で教師の採用や授業、行事がスムーズに行われるように日西両語を理解して生徒児童を持つ人材を配置して、教師代表、PTA役員と共に学校運営諸問題を協議して予算関係は日ボ理事会等に意見を述べている。</p> <p>・教師給与の一部はJICAより教師謝金として助成を受けている。1997年度実績は支給全体額の15%程度である。</p> <p>・スクールバスは南部に定員64名（補助席を含む）の長崎県より寄贈された中古（38万km走行）車を、北部に定員32名（補助席含む）のマイクロバスを運行し、定員以上の130名の園児、生徒を運んでいる。</p>	<p>・学校運営で教師の待遇が授業料で維持する事が容易ではない。理由は当地の県都サントクルス市内の普通の私立校（公立は授業の内容が落ちるし授業日数が少ない）と比較してやや高い程度であるがこれ以上の授業料をアップは高学年生徒の都市部への流出で生徒数の減少に繋がる。</p> <p>・各農家の居住地が離れて、スクールバスの運営と車両更新費の積立問題、南部で地域外まで約25km、北部で約35km（片道の道路距離）運行している。地形的に2台のバスが必要で、運営難で専用の運転手を採用できず道路工事班と兼務運転手である。広域の地域性と生徒数の減少のため運営に困難を来している。</p> <p>・日本語教師の不足でJICAのシニアや青年ボラの他日本よりボランティアを特別に採用している。地域内の老人ボランティアは時代遅れ。</p> <p>・西語教師はサンファンのような僻地では二部三部授業やアルバイトの口も無く相当の手当を出さなければ優秀な教師の採用は困難で、毎年補充の教師の手配に苦労している。</p>	<p>・教育委員会において日ボ担当理事、委員、教師代表、PTA代表が協議・検討して対処している。スクールバス更新問題は現在積立も少なく、小型車の更新の場合でも他の特別積立金等を総会の承認を受け流用するか、更新積立額が2/3相当になるまで出身者の多い長崎県に再度中古車の寄贈を要請してもらえよう県人会にお願いしている。</p> <p>・生徒数を増やすため地域外のポリヴィア人生徒を受入れている。</p>	<p>・生徒数が減少して授業料・スクールバス運賃の増額は父兄の理解を得て行わなければならないし、また特別の寄付金を募っても実施しなければならない。</p> <p>・日本語教育は日本の一般ボランティアを採用しなければならないがJICAへ複数の青年ボランティアの継続派遣をお願いする。</p> <p>・日系人や生徒数の極端な減少で日本語教育の縮小や公立校への合併・移管問題で移住地教育が衰退した場合、低開発国でも未開発の地方部への教育の同化・順化（教育レベルの低下）は日ボ協会の存在価値の問題へ発展する事は避け難く、相当な期間までなりふりかまわず努力しなければならない。ソフト面での人材育成も最重要な問題である。</p> <p>・都市部に負けない教育設備と内容の充実を図らなければならない。</p>
---	---	--	---

(3) その他の重要課題

1) サン・ファン移住地のイチロ郡第4管区成立問題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<p>・イチロ郡は現在3地区に分割されており、1997年大衆参加法により、それらの自治組織に予算の配分や道路補修機械車両等の政府援助が開始された。また車両税、土地税、農地税等の支払い義務等の制度が強化され、それらの資金を利用して、地域の管理や開発への投資が可能となり、納税が開始され、地方自治体の資金確保で地域開発への税金の利用が可能となり、納税者への地域還元資金の有効投下を監視する必要が出てきた。 納税額が極端に大きい日系人の意見が反映されるよう日系集落の発言力を拡大しなければならない。</p>	<p>・サンタクルス県担当官に申請手続き新境界線も正式に策定し中央政府に提出し、関係政治家（衆議院）の協力を得て担当局が審査し、サンファン分離独立の可能性を示唆されたが、法案は衆議院での基準が参議院で変更になり、再度基準をクリアしなければならない。</p>	<p>・サンファン分離独立法案の成立の時期は確約されていないが来年後半か、再来年後半の地方選挙前とされている。しかし必ずしも法案が通るとは限らない。政治的応援を必要とするかもしれない。</p>

2) サンファン市街地のボリヴィア人居住地区拡張問題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<p>・日系人の営農規模拡大、農協の事業拡大でサンファン市街地にボリヴィア人が増加して推定約5,000人が居住しているが、地価（住宅地）の高騰で容易に労働者階級が購入できなくなった。政変時や政治力を使って選挙前に人気を得るため市街地周辺の日系人所有地を市街地土地利用計画等を理由に一方的に変更や組み入れ等を策謀し、安く（納税評価額等）評価して配分する当地特有の政治的な策謀がある。</p>	<p>・周辺土地所有者（日本人）は強制的に取用されるより、現在、Sub Alcaldeが穏和で友好的な立場にある時点で住宅用地に分譲造成して売却する方法をとり現状価格で売出している。サンファン村には現在OTB（基礎地域共同体＝区長格）が14名いるが、その内7名が日系人で、彼等がSub Alcaldeを監視し、民主的に話し合いで解決できるよう努力している。OTBには語学力、発言力のある人材を推薦している。</p>	<p>・OTBや地方議会への進出や地域団体への積極的な参入（当方が謝金を出して応援）等で発言力の拡大を図る事。並びに委員会等で市街地計画を策定し強力に推し進める。</p>

3) 人材の不足

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<p>・営農不振の時期に借金返済等の目的で日本に出稼ぎに若年者が多く出た。一部は帰省して営農の拡大、或いは転業で成功しているケースもあるが、日・西両語を理解する移住地の若手後継者が本邦に長期間転住している事は移住地が一世から二世への世代交替期にある中で、世代の交替がスムーズに進まない。特にボリヴィア社会に参入しなければならない時期に今後の移住地発展の組織造りに痛手である。</p>	<p>・特に無いが、要望としてはJICAよりの営農資金の融資を優先的に願う。</p>	<p>・移住地でも相当に資金を稼いでこなければ簡単に独立は出来ない。転職資金獲得のための出稼ぎや自費研修の目的で帰国する者への指導を行いたい。 ・JICA研修員、家族会研修員、各県研修員の推薦に当っては現地での就業を義務付けたい。</p>

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

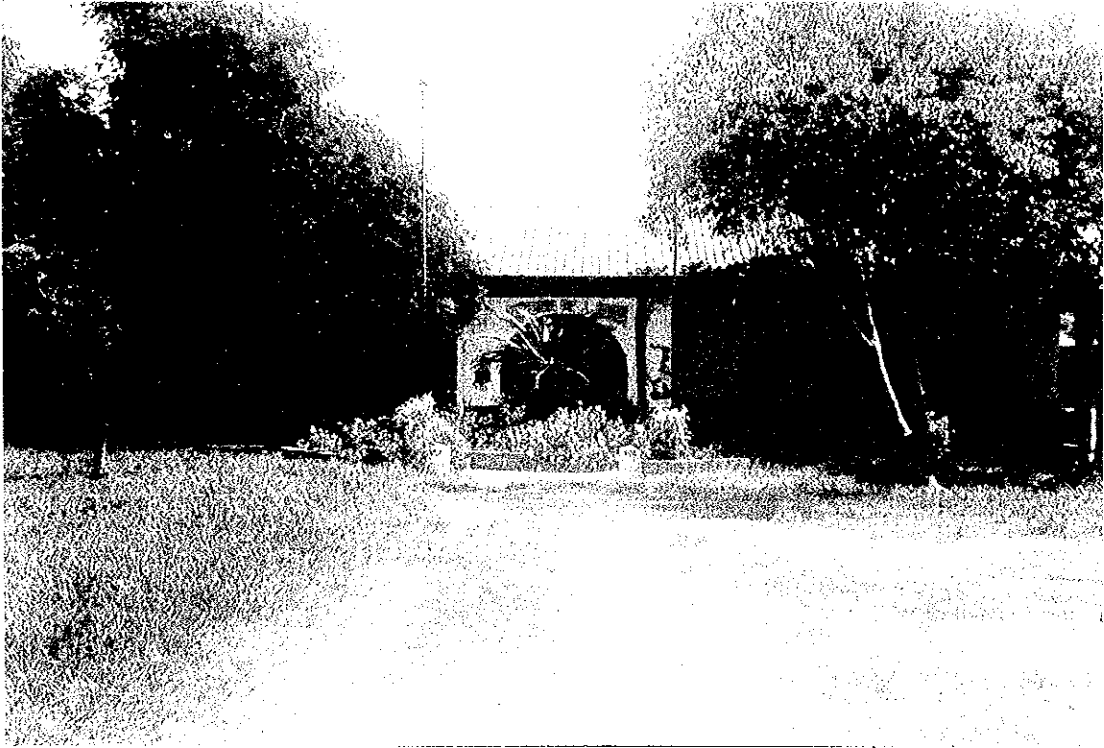
パラグアイ等の類似した移住地関係者が数年前までは良く視察等で来訪していたし、移住地創立記念祭等に招待した事もあるが、現在は県人会等の交流が行われている。地区内の長崎県人会は昨年ブラジル県人会と交流を行い、また福岡県人会は昨年ブラジル、北米等と交流親睦を行っている。

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・サンファン移住地がイチロ郡の第4管区として独立自治体の手続き申請中であり、①地域の幹線道路のアスファルト舗装計画 ②将来の地域（移住地を含む管轄区）の道路の維持管理のための機材提供 ③アンボロ森林保護区内に淡水魚の養魚飼育試験場計画等をサンタクルス県庁を通じ中央政府へ日本大使館への無償資金供与と技術協力を申請している。
地方自治体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・サンカルロス村への道路敷設砂利購入予算を要求して本年初めてBs.40,000.-(約US\$7,100)の助成を受けた。また、県庁へ管轄下の道路公団への道路用砂利の無償提供を申請して一応許可を得ている。公団の機械が他に貸与中でまだ稼働していないため現物は受領していない。
地域住民・民間団体との関係	<ul style="list-style-type: none"> ・日ボ協会直営診療所の受診者は83.43%が地域住民である（1997年実績）。移住地北部には約5,000人が居住しているが、医者（診療所）が無い。 ・OTBや地元法的団体（Sub Alcalde）と友好関係にあり問題の解決は話し合いで行い、市街地の整備等は1998年末日本大使館の「草の根無償資金」が許可され施工を予定している。 ・市街地や移住地周辺の集落、移住地北方地帯の集落、地区南部の砂利採取地集落等の道路補修整備に協会所有の機械で実施している。 ・サンファン農協直営農場は隣接の農民に種子や農産物の販売と営農指導、農協制度の研修会の実施、農場の展示公開等を行っている。 ・協会所有の交流会館、運動場等施設を提供して日ボ合同の研修会、国体（スポーツ大会）農産物宣伝、営農指導、森林保護講習会、税制度説明会などに便宜を供与して居る。

(3) JICAへの要望・期待

- ① 現行の診療所、教育の助成金の継続
- ② 対国（GG）ベースの援助で道路維持関係の機械車両の無償援助があるが、それらの場合移住地管内に指定して援助をお願いする。政府や県、郡単位では政治的に勢力の強いところに集中して、移住地まで実行されずリップサービスのみで全然協力が見られない。
- ③ 出稼ぎ帰国者の移住地Uターン者への営農資金、転業資金の優先的融資をお願いする。
- ④ 老人ホーム建設及び施設設備の無償援助。



サン・ファン幼稚園（1994年運営移管）



ガソリンスタンド施設（1989年改装）

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	サンタクルス中央日本人会				
	(欧文) Centro Social Japones de Santa Cruz				
設立目的	1) 日本、ボリヴィア両国との社会的友好関係の推進と増進 2) 会員相互の親睦 3) 会員相互の救済援助の助成 4) 会員の文化、体育、教育の促進を図る 5) 会員の社会的、経済的向上を図る				
設立年月日	1956年10月12日		法人格取得年月日	1967年 3月 日	
代表者	職名	会長		任期	99年 1月～99年12月
	氏名(和文)	坂口 清			
	// (欧文)	Kiyoshi Sakaguchi			
役員構成	会長 1名、副会長 1名、幹事長 1名、書記 1名、会計 1名、理事 7名、婦人部長 1名 青年部長 1名、日本語学校長 1名				
本部所在地	Av. Beni No 40, Santa Cruz, Bolivia				
連絡先	郵便物宛先	Casilla Correo Postal 2006, Santa Cruz, Bolivia			
	電話番号	0342-6891	(団体・個人宅[])		
	FAX番号	0342-6891	(団体・個人宅[])		
	E-mailアドレス	(団体・個人宅[])			
会員数	個人会員	125世帯 635名 地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 80%			
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降
		110人(88%)	14人(11.2%)	1人(0.8%)	___人(___%)
法人、団体会員	___法人(団体) 主な法人(団体)名:				
会員資格等	会員資格	・日系人及び、日本人 ・地域内居住者 ・名誉会員：賛助会員			
	会費	年間120米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨 Bs 5.67)			
	会員の特典	会館使用料割引、医療相談の診察料割引			
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等)				
	日本語及びスペイン語				
	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)				
	日本語及びスペイン語				
定期出版物	タイトル				
	発行部数				
	言語				
	価格(有料の場合)				

2. 事業実施体制

(1) 本部および附属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
		総務、経理部	2
附属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	日本語学校	8	
	普及校（ポリヴィア人を対象とした日本語教育）	1	

(2) 団体組織機構（部局、部会、委員会等）

団体組織機構名	業務概要	人員体制
専用事務所	日会運営に係わる全般的管理、業務一般	2
日本語学校	地域内居住者の日本語教育	106
青年部	青年相互の親睦を図り、会の活性化に寄与する	25
婦人部	婦人部員の向上を図り、会の運営に協力	120
敬老会	スポーツ、娯楽を通し、高齢者同士の交流を図る	40
教育委員会	地域内の教育機関の運営管理	3
会館運営	地域住民との融和、日本文化の普及、交流等の促進を図る	

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
事務所	業務遂行のため
交流会館	会の行事に応じ利用。大ホール：地域住民が行事に応じ利用
日本語学校	日本語授業に利用

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年_1月_1日～ 97年 12月 21日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1) 一般会計		1) 一般会計	
前期繰越金	6,073.86	職員給与	6,780.20
会費収入 (前期含む)	16,020.00	管理人手当	3,350.90
行事収入 (寄付金含む)	5,360.42	事業支出	15,525.06
その他の収入		日ボ協会会費	3,600.00
特約医謝金 (JICA)	2,774.08	医療対策費	2,774.08
預金利息	830.19	次期繰越金	2,609.15
雑収入	806.76		
医療対策収入	2,774.08		
小計	34,639.39	小計	34,639.39
2) 民生部		2) 民生部	
前期繰越金	1,212.34	慰霊祭費	44.27
基地使用料	775.00	基地修復費	956.04
寄付金	504.22	次期繰越金	2,414.62
負担金 (雑収入含む)	923.37		
小計	3,414.93	小計	3,414.93
3) 日本語学校		3) 日本語学校	
前期繰越金	3,241.85	教師謝金	25,345.00
入学金	3,005.00	教師謝金 (普及校)	5,145.00
月謝	32,900.00	事務員手当	1,575.00
月謝 (普及学級)	9,160.00	退職金	6,335.00
その他助成金		教材費	5,422.50
・ JICA教師謝金	3,266.38	行事費	2,000.00
・ JICA教材購入	319.93	負担金	398.00
・ 国際交流基金	3,769.00	備品事務消耗費	2,239.77
普及学級		次期繰越金	7,390.68
雑収入	188.79		
小計	55,850.95	小計	55,850.95
合計	93,905.27	合計	93,905.27

換算レート : US\$1=現地通貨Bs. 5.67 (99年 2月 2日現在)

※通貨を統一させる都合上、金額は米ドル表記とし、現地通貨との換算レートを記載願います。

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1993	1994	1995	1996	1997
予算額	104,700.00	100,800.00	119,800.00	94,800.00	93,790.00
支出額 (実績)	78,707.60	58,489.75	103,188.43	84,416.83	81,490.82

4. 事業概要

(1) 事業内容

- ・自治活動（会員の年間行事、対外交渉、青年・婦人部活動）
- ・学校運営
- ・交流会館運営

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：日本語教育

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
<ul style="list-style-type: none"> ・日本語学校の運営 ・日本語教師研修 ・教材作成 ・普及クラス（ボ国人対象） 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育の位置付けと見直し ・若手教師の不足。一世教師の高齢化が目立ち、若手教師の育成が急務 ・有資格教師の育成 ・普及クラスでの日本語授業経験のある教師の補充 ・校舎の老朽化 	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語としての日本語教授法の種々の問題点あり。検討委員会を設置し取組む必要がある。 ・日本語教師の人材育成計画 ・他の機関とも情報交換を図り、問題解決に取組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語教育の位置付けを明確にし、日系社会のコンセンサスを得る。 ・日系社会ボランティア等の協力を得て、人材育成計画に基づき若手教師の育成を行い、日本語教育の活性化を図る。

2) 分野名：域内親睦（会員対象の親睦活動）

<ul style="list-style-type: none"> ・年中行事として成人式カーニバルパーティ、ピクニック、カラオケ大会運動会、敬老会、盆踊り料理教室、バザー、母の日、新年会、忘年会、各種スポーツ大会、その他を実施。 	<ul style="list-style-type: none"> ・世代交換の時期にあり、若い世代の参加が少ない。今後老いも若きも積極的に参加できる環境作りが課題。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一世、二世を問わず、興味を持つ行事を中心に企画して行きたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・青年部、婦人部を交え日系社会における連帯の活性化を図る。
---	---	---	---

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
特になし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

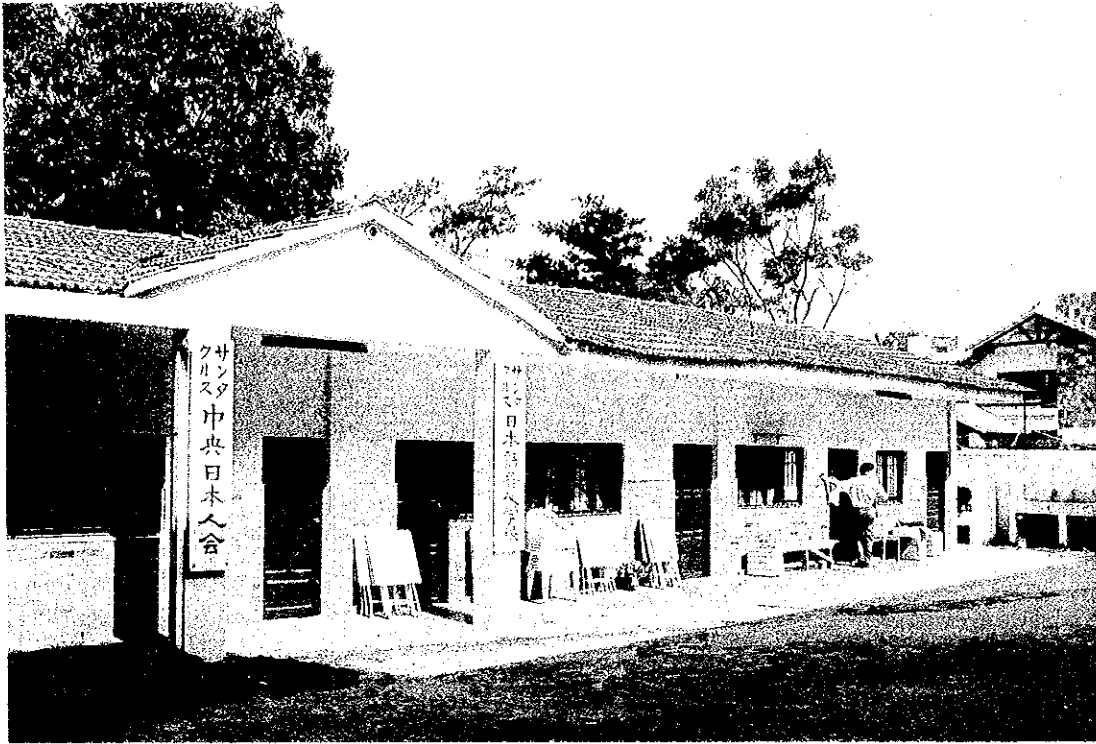
スポーツ交換（ゲートボール）

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	なし
地方自治体との関係	・市役所との友好関係を維持するため、年中行事を催す際には招待している
地域住民・民間団体との関係	なし

(3) JICAへの要望・期待

特になし



日本語学校・普及校



日ボ交流会館全景

海外日系団体活動状況調査票

1. 基本情報

団体名称	ボリヴィア日本語教育研究会					
	(欧文) Comite de Estudio Enseñanza del Idioma Japonés en Bolivia					
設立目的	ボリヴィア日本語教育研究委員会は、ボリヴィア国における日本語教育に関する諸問題を検討し、日本語教育技術の改善向上及び普及並びに日本文化の継承に資する事を目的とする					
設立年月日	1997年 4月 1日		法人格取得年月日	年 月 日		
代表者	職名	会長		任期	97年 4月～99年 3月	
	氏名(和文)	長岡 正志				
	// (欧文)	Masashi Nagaoka				
役員構成	委員長 1名、副委員長 2名、事務局長 1名、事務局次長 1名、代表委員 5名					
本部所在地	Calle. J. Coimbra S/N, Santa Cruz, Bolivia					
連絡先	郵便物宛先	Casilla de Correo 321, Okinawa No2, Santa Cruz, Bolivia				
	電話番号	0333-1452	(団体・個人宅[])			
	FAX番号	0333-1452	(団体・個人宅[])			
	E-mailアドレス	(団体・個人宅[])				
会員数	個人会員	_____世帯 46名		地域内日系家庭全体に対する加入率: 約 _____%		
	個人会員構成	一世	二世	三世	四世以降	非日系人
		38人(82.6%)	6人(13.0%)	1人(2.2%)	____人(____%)	1人(2.2%)
法人、団体会員	_____法人(団体) 主な法人(団体)名:					
会員資格等	会員資格	・日本語学校、日本語普及校に勤務または、日本語教育に携わるものとする。 ・ ・				
	会費	年間 50米ドル相当額(換算レート: US\$1=現地通貨)				
	会員の特典					
使用言語	・総会、役員会等の集会時の使用言語(日本語のみ、現地語のみ、両方等)					
	日本語					
定期出版物	・団体が発行している各種資料(パンフレット、機関誌、総会資料、事務書類等)					
	日本語					
定期出版物	タイトル	ボリヴィア日本語教育研究委員会要覧				
	発行部数					
	言語					
	価格(有料の場合)					

2. 事業実施体制

(1) 本部および附属機関

本部 (事務局)	部門名	専従正規 職員数	その他 職員数
	委員長	1	
	事務局長	1	
	事務局次長	1	
附属 機関	機関名	専従正規 職員数	その他 職員数
	沖縄第一日ボ学校	7	
	サンタ・クルス日本語学校	8	
	ラ・パス補習授業校	13	
	サンファン学園	6	
	トリニダ日本語学校	11	

(2) 団体組織機構 (部局、部会、委員会等)

団体組織機構名	業務概要	人員体制
なし		

(3) 所有施設と利用状況

施設名	利用状況
なし	

3. 財政状況

(1) 直近年度の財政状況

1997年度収支計算書 (97年 4月 1日～ 98年 3月 31日)

(US\$)

歳入の部		歳出の部	
1) 会費収入	2,300.00	1) 第一回研修会	2,841.90
2) JICA助成金	11,301.89	2) 第二回研修会	4,069.52
3) 寄付金	420.19	3) 第三回研修会	2,356.19
		4) 教材開発費	4,754.47
合計	14,022.08	合計	14,022.08

換算レート: US\$1=現地通貨5.25BS (97年 7月31日現在)

(2) 過去5年の財政状況

(US\$)

年度	1995	1996	1997		
予算額	9,487.69	11,535.82	14,022.08		
支出額 (実績)	9,487.69	11,535.82	14,022.08		

4. 事業概要

(1) 事業内容

<ul style="list-style-type: none"> ・年三回教師合同研修会 ・日本語教育に関する教材開発（開発教材を使つての公開授業） ・日本文化継承（お話大会、スポーツ交歓会の実施）
--

(2) 重点分野への取組（重要度が高い順に記載）

1) 分野名：日本語教育

現在の活動状況	課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
日本語教師研修会開催	研修会の見直し	現在年三回研修会を実施しているが、回を増し本格的に取り組んだ研修をしたい。	当日系人にあつた教材開発を進めるとともに、若手教師の育成を行い、日本語教育の充実をはかる。

2) 分野名：域内親睦

年中行事 <ul style="list-style-type: none"> ・お話大会 ・スポーツ交歓会 ・公開授業 ・研修会 （含、宿泊研修） 	研究会の規模が大きくなつたため、運営が困難。 （全行事について）	今後、会員負担金の増額を考慮し、行事を続行できるようにしていきたい。	日系子弟教育の向上 日本文化の継承
---	-------------------------------------	------------------------------------	----------------------

(3) その他の重要課題

課題・問題点	現状での具体的な取組	将来の方針・目標
なし		

5. その他

(1) 他国の日系団体との交流とその方法

汎米日本語教師合同研修会参加

(2) 今日における中央政府、地方自治体等との関係

中央政府との関係	特になし
地方自治体との関係	特になし
地域住民・民間団体との関係	特になし

(3) JICAへの要望・期待

<p>97年度より、サンタ・クルス州日本語教育研究会より、ボリヴィア日本語教育研究委員会となり、規模も大きくなり、運営面で困窮。合同研修会参加については、遠くはラ・パス、トリニダより参加している為、ほとんどが交通費に消費され、教材開発の資金が不足。私共会員全員で努力しているところだが、今後もご援助のほどをお願いしたい。</p>
--

